

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立貴志川高等学校 校長名：松下 重喜

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

集団生活における規則正しい生活習慣の確立を図るとともに、ルールやマナーを守る「自律・遵守」の心、一人一人の「個性」を十分に尊重し、価値観が異なる他者との「ご縁」と「協働」を大切にします。
 また、学習（学び直し）の中から得られる「自己肯定感」と課題解決に向けて最後まであきらめない「自立」と「忍耐力」をもてるよう涵養を図る。
 本校は、地域に支えられた学校であるため地域との連携を積極的に図り、地域の一人としての自覚を持ち、「命」を大切にするとともに自分自身を取り巻く全てのもの及び他者に対して「目配り、気配り、心配り」をもてるよう徳性の涵養を図る。

学校評価の公表方法

本校教職員に共通理解を図るとともに、きのくにコミュニティスクールにおける学校運営協議会において、その結果を分析・改善策に関する意見交換を行う。
 さらに、本校 HP にて公表し、開かれた学校づくりを行う。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	① 基本的な生活習慣の確立 ② 自律態度の涵養 ③ 新型コロナウイルス感染症対策等の危機管理の徹底	B	基本的な生活習慣の確立及び身だしなみ指導、正しいモバイルツール等の使用について指導の徹底を図る	保護者召還注意指導を繰り返す生徒 0名	B	定期的な身だしなみ指導を実施 モバイル等の使用に係る指導は、感染対策のため開催できなかった	コロナ禍で実施できなかった面も多々あった。効果が期待される指導の確保の確保を実現しながら未然防止等の徹底を図っていききたい。
			アセンブリー等を充実させ、問題行動の未然防止に努める	問題行動を繰り返す生徒 0名	B	アセンブリーの実施は難しい。関わりにより問題行動の未然防止に努めた	
			感染拡大防止、交通安全指導、自転車等整備点検、いじめ撲滅等の徹底を図る	クラスター 0件 交通事故等 0件	B	感染防止の徹底 クラスター0件 継続して交通安全指導、いじめ撲滅等の徹底を図る 交通事故1件	
2	① 授業規律の確立 ② 「学び直し」「特別支援教育」の視点を持った授業展開とアクティブな分かりやすい授業づくり ③ 進路意識及び学習に対するモチベーションの高揚	B	始業ベルと同時に授業を開始し、授業規律の確立を図る	ベル着の完全実施 課題を少なくする	A	ベル着が徹底されている 教員の課題減の意識が高まった	学習習慣、基礎学力等に課題を持つ生徒も多いため、効果が現れている取り組みは、継続することにより在籍生徒の満足感を高めるとともに本校への志願者増加の糧となるようキャリア教育の充実と発信を図っていききたい。
			基礎学力の定着に向けた学習指導（学び直し）及び伸び度が実感できる授業づくり及び通級制度の活用を図る	全員の教科修得、追認合格、進級、卒業を目指す（卒業・進級率 100%）	B	GTZによる基礎学力向上 各教員による授業づくり 通級制度の活用 進級率 100	
			キャリア教育の充実と確かな職業観・就職観の涵養及び就職・進学指導の充実を図る	学校斡旋就職内定率 100% 県内大学（4年制）合格者 10名以上	B	学校斡旋就職内定率 100% 県内大学（4年制）合格者 6名	
3	① 生徒の実態把握(アセスメント)力の向上 ② 入学志願者数増加	C	学校生活全般、指導等の機会において日々、言葉配りある声掛けにより、生徒理解及び信頼関係の深化を図る 情報を共有し、正確に生徒をアセスメントするよう努める	挨拶の返答率 90% 家庭、中学校訪問の実施 ケース会議の開催 教育相談担当教員（特別支援 CO）及び SC・SSW・保護者との連携	A	挨拶の返答率 ほぼ 100% 必要に応じて家庭訪問や中学校訪問を実施できた SC 及び SSW、教育相談担当教員と連携できた	本校は、生徒一人一人を大切にしている学校である。このことを全教員が再認識し、学習保障を図るとともに問題行動の未然防止につながるアセスメントの充実と努めていく。これをベースに各中学校や地域に発信し、本校の信頼と特色を高め、志願者増加を目指す。
			本校教育活動の特色の深化を図り、積極的な広報活動及び継続した地域連携を図る	中高連携事業の充実 志願者倍率の大幅向上	C	中高合同学校運営協議会を開催 地域活性化の取組を実施 積極的に中学校訪問を実施	

学校関係者評価（2月14日実施）

少人数のクラスもあり教師の目がほとんどの生徒に行き届き、個別対応もしやすい。また、協働と体験を学習するヒューマンライフの授業は、学ぶ生徒も教える教員も共にワクワク感一杯になった魅力的な取組を展開している。
 授業アンケート結果をフィードバックし授業改善に活かしていくことが重要である。
 貴志川線の駅を媒介にした西山口駅のウォールアート制作がとても楽しみである。地域にとって喜ばしい企画を推進してくれている。中学校との連携交流も文化祭・体育祭まで広げてみてよいのではないだろうか。
 今後の貴志川高校の在り方について、学校改革の展望とビジョンをより明確にするとともに貴志川中学校をはじめとする各関係団体との連携を図っていくことが重要であろう。生徒に主体的に取り組ませて達成感を感じさせる取り組みを企画してもらいたい。そして地域で学べるものを取り入れるなど学校独自の特色を出してはどうか。
 部活動を活性化させるための取り組みを進めていかなければならない。地域の人材活用がどこまで進むかについては課題が山積していると思われる。硬式野球部や吹奏楽部の活性化、新たにダンス部を設立するなど生徒のニーズを叶えられないだろうか。志願者増加のためにも必要なことである。
 繰り返されるコロナ禍において、感染症対策を施しながら、各クラス工夫して発表された今年度の文化祭（プレイクダンス鑑賞、舞台発表、展示、模擬店）はほぼ例年通りの形で実施され、とても素晴らしかった。生徒と交流もでき、来年は PTA 及び同窓会からも是非とも出店したいと聞いている。
 また、花いっぱい運動や間伐体験等の貴志川高校生活動が昨年度以上に発信、広報・報道されていることは大いに評価したい。もっと保護者の興味関心が高められる企画を検討していく必要があるであろう。